

(様式第 10)

神大医総第 84 号
平成 27 年 10 月 14 日

厚生労働大臣

殿

管理者名 神戸大学医学部附属病院長
藤澤 正人 (印)

神戸大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
氏 名	国立大学法人神戸大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

神戸大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒650-0017 神戸市中央区楠町 7 丁目 5-2 電話 (078) 382-5111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科 2 腎臓内科 3 呼吸器内科 4 消化器内科 5 神経内科 6 血液内科 7 感染症内科	
診療実績 糖尿病内分泌内科、腫瘍・血液内科	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	④ ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 小児外科 3 形成外科 4 美容外科	
診療実績 食道・胃腸外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、耳鼻いんこう頭頸部外科	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科
⑦産婦人科	8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科
13放射線診断科	14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	④ ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科 2 矯正歯科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 放射線腫瘍科	2 病理診断科	3 リハビリテーション科
----------	---------	--------------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
46床	0床	0床	0床	888床	934床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	291人	441人	667.7人	看 護 補 助 者	58人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	8人	23人	27.2人	理 学 療 法 士	17人	臨 床 検 査 技 師	68人
薬 剤 師	67人	5人	72人	作 業 療 法 士	6人	衛 生 検 査 技 師	1人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	12人	そ の 他	0人
助 産 師	34人	1人	35人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	834人	41人	866.2人	臨 床 工 学 士	36人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	3人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	27人
歯 科 衛 生 士	3人	2人	5人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	269人
管 理 栄 養 士	7人	6人	13人	診 療 放 射 線 技 師	51人	そ の 他 の 職 員	27人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	39人	眼科専門医	10人
外科専門医	55人	耳鼻咽喉科専門医	15人
精神科専門医	11人	放射線科専門医	30人
小児科専門医	28人	脳神経外科専門医	14人
皮膚科専門医	12人	整形外科専門医	32人
泌尿器科専門医	20人	麻酔科専門医	16人
産婦人科専門医	22人	救急科専門医	7人
		合 計	311人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	823.9人	16.0人	839.9人
1日当たり平均外来患者数	1300.0人	62.2人	1362.2人
1日当たり平均調剤数		1764.8	剤
必要医師数			168人
必要歯科医師数			6人
必要薬剤師数			28人
必要(准)看護師数			467人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	m ² 653	鉄筋コンクリート	病床数	36床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	55m ²	病床数 5 床 (クラス100)		
	[移動式の場合]	台数	台	643.39m ²	病床数 63 床 (クラス100以外)	
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	51.24m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	58m ²		(主な設備) 自動臨床化学分析装置			
細菌検査室	73m ²		(主な設備) 細胞分析計, 自動微生物同定感受性装置			
病理検査室	247m ²		(主な設備) クリオスタット, ウルトラマイクローム, 染色装置			
病理解剖室	67m ²		(主な設備) 解剖台, オートクレーブ, 写真撮影機			
研究室	430m ²		(主な設備)			
講義室	1,193m ²		室数	6室	収容定員 計952 人 (各室252,120,120,315,100,45)	
図書室	2,145m ²		室数	1室	蔵書数 約15万冊程度	

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	83.1%	逆紹介率	55.0%
算出根拠	A: 紹介患者の数	17310人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12175人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1067人	
	D: 初診の患者の数	22120人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 da Vinci サージカルシステムを用いたロボット支援腹腔鏡下部分切除術の有用性を検討するため、画像診断によりcT1,cN0,cM0 ステージの腎がんと判定された患者を対象に腎部分切除術を行う。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	121人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	79人	・広範脊柱管狭窄症	6人
・重症筋無力症	93人	・原発性胆汁性肝硬変	57人
・全身性エリテマトーデス	331人	・重症急性膵炎	13人
・スモン	3人	・特発性大腿骨頭壊死症	80人
・再生不良性貧血	28人	・混合性結合組織病	56人
・サルコイドーシス	67人	・原発性免疫不全症候群	8人
・筋萎縮性側索硬化症	26人	・特発性間質性肺炎	9人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	232人	・網膜色素変性症	21人
・特発性血小板減少性紫斑病	55人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	56人	・肺動脈性肺高血圧症	45人
・潰瘍性大腸炎	92人	・神経線維腫症	21人
・大動脈炎症候群	46人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	20人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	37人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	53人
・脊髄小脳変性症	76人	・ライソゾーム病	7人
・クローン病	43人	・副腎白質ジストロフィー	4人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	6人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	16人	・脊髄性筋委縮症	8人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	83人	・球脊髄性筋委縮症	3人
		・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	33人
・アミロイドーシス	7人	・肥大型心筋症	20人
・後縦靭帯骨化症	22人	・拘束型心筋症	0人
・ハンチントン病	2人	・ミトコンドリア病	20人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	19人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	6人
・ウェゲナー肉芽腫症	19人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	139人	・黄色靭帯骨化症	5人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	32人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	210人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人		

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算)
・歯科外来診療環境体制加算	・患者サポート体制充実加算
・歯科診療特別対応連携加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・特定機能病院入院基本料(一般7:1、精神13:1)	・ハイリスク妊娠管理加算
・臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	・ハイリスク分娩管理加算
・救急医療管理加算	・退院調整加算
・超急性期脳卒中加算	・新生児特定集中治療室退院調整加算1、2、3
・妊産婦緊急搬送入院加算	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・診療録管理体制加算1	・救急搬送患者地域連携受入加算
・急性期看護補助体制加算(50:1)	・呼吸ケアチーム加算
・看護職員夜間配置加算	・病棟薬剤業務実施加算
・看護補助加算2	・データ提出加算2
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料4
・重症者等療養環境特別加算	・総合周産期特定集中治療室管理料1、2
・無菌治療室管理加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算2	・小児入院医療管理料2(注2の加算)
・緩和ケア診療加算	以上
・精神科応急入院施設管理加算	
・精神病棟入院時医学管理加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・重度アルコール依存症入院医療管理加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・検体検査管理加算IV
・植込型除細動器移行期加算	・遺伝カウンセリング加算
・高度難聴指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・糖尿病合併症管理料	・植込型心電図検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・胎児心エコー法
・がん指導管理料1、2、3	・時間内歩行試験
・外来緩和ケア管理料	・ヘッドアップティルト試験
・移植後患者指導管理料(臓器移植後、造血幹細胞移植後)	・人工臓腑
・糖尿病透析予防指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・院内トリアージ実施料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・夜間休日救急搬送医学管理料	・脳磁図
・外来放射線照射診療料	・神経学的検査
・ニコチン依存症管理料	・ロービジョン検査判断料
・がん治療連携計画策定料	・コンタクトレンズ検査料1
・がん治療連携管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・認知症専門診断管理料	・内服・点滴誘発試験
・肝炎インターフェロン治療計画料	・センチネルリンパ節生検1(併用法)、2(単独法)
・薬剤管理指導料	・画像診断管理加算2
・医療機器安全管理料1	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・医療機器安全管理料2	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料(歯科)	・冠動脈CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・心臓MRI撮影加算
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建居住者訪問看護・指導料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・持続血糖測定器加算	・外来化学療法加算1
・造血器腫瘍遺伝子検査	・無菌製剤処理料
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)、初期加算

続く

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)、初期加算	・網膜再建術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)、初期加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)、初期加算	・ゲル充填人口乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・がん患者リハビリテーション料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・精神科作業療法	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、2
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・経皮的冠動脈形成術
・医療保護入院等診療料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・医科点数表第2章第9部処置の通則5に掲げる処置の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	・経皮的冠動脈ステント留置術
・歯科点数表第2章第8部処置の通則6に掲げる処置の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	・経皮的大動脈弁置換術
・エタノールの局所注入(甲状腺)、(副甲状腺)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・透析液水質確保加算1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・磁気による膀胱等刺激法	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・一酸化窒素吸入療法	・両心室ペースメーカー移植術及び両親室ペースメーカー交換術
・CAD/CAM冠	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
・歯科技工加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る)	・補助人工心臓
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る)	・経皮的大動脈遮断術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・ダメージコントロール手術
・頭蓋骨形成手術(骨異動を伴うものに限る)	・体外衝撃波胆石破碎術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下肝切除術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・生体部分肝移植術
・羊膜移植術	・同種死体肝移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)	・体外衝撃波膀胱石破碎術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術

続く

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)
・同種死体腎移植術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・生体腎移植術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・膀胱水圧拡張術	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・人工尿道括約筋植込・置換術	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・歯科矯正診断料
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	以上
・医科点数表第2章第10部手術の通則12に掲げる手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	
・歯科点数表第2章第9部手術の通則9に掲げる手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	
・輸血管理料 I	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・内視鏡手術用支援機器加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・麻酔管理料(I)	
・麻酔管理料(II)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・画像支援ナビゲーション手術	・
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	・
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・超音波骨折治療法	・
・眼底3次元画像解析	・
・内視鏡下小切開泌尿器手術	・
・画像支援ナビゲーションシステムによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	・
・腋窩リンパ節郭清術の実施前におけるセンチネルリンパ節の同定及び生検	・
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定及び転移の検索	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの)	・
・遺伝学的検査(色素性乾皮症)	・
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・画像等手術支援加算	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	平均 週4回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 33例 / 剖検率 11.70%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
がん放射線・粒子線治療用体内吸収性スーパの開発	福本 巧	肝胆膵外科	5,699,174	補 委 公益財団法人新産業創造研究機構
自動化による術中高速組織診断のための新型免疫組織染色装置の開発	伊藤 智雄	病理診断科	2,043,360	補 委 公益財団法人あきた企業活性化センター
化学放射線療法後治療効果診断および切除可能性診断法確立のための研究	具 英成	肝胆膵外科	200,000	補 委 独立行政法人国立がん研究センター
頭頸部がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	400,000	補 委 独立行政法人国立がん研究センター
小児がんの標準治療確立のための臨床試験デザイン	吉村 健一	臨床研究推進センター	250,000	補 委 独立行政法人国立がん研究センター
アルペカシンのデュシェンヌ型筋ジストロフィー患者に対する安全性、ナンセンス変異のリードスルー作用に基づく有効性の検討を目的としたプラセボ対照無作為化試験	飯島 一誠	小児科学	75,598,000	補 委 社団法人日本医師会 治験促進センター
治験の実施に関する研究[アルペカシン硫酸塩]	飯島 一誠	小児科学	1,000,000	補 委 社団法人日本医師会 治験促進センター
治験の実施に関する研究[エプレレノン]	平田 健一	循環器内科	800,000	補 委 社団法人日本医師会 治験促進センター
治験の実施に関する研究[A型ボツリヌス毒素]	齋藤 幹	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,000,000	補 委 社団法人日本医師会 治験促進センター
筋ジストロフィーおよび関連疾患の診断・治療開発を目指した基盤研究	戸田 達史	神経内科	1,000,000	補 委 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
高い安全性と更なる低侵襲化および高難度治療を可能にする軟性内視鏡手術システムの研究開発	佐々木 良平	放射線腫瘍科	5,000,000	補 委 慶應義塾大学
神経変性疾患iPS細胞由来疾患材料を用いた遺伝学的解析	戸田 達史	神経内科	20,150,000	補 委 独立行政法人科学技術振興機構
包括的メタボロミクス・ターゲットプロテオミクスによるがん診断・薬効診断マーカー探索と革新的統合臨床診断ネットワーク構築	吉田 優	病因病態解析学	4,823,000	補 委 独立行政法人科学技術振興機構
候補代謝産物BMの核酸を用いた検証	戸田 達史	神経内科	1,300,000	補 委 独立行政法人科学技術振興機構
骨を要とする多臓器恒常性維持機構の解明	片山 義雄	血液内科	17,656,600	補 委 独立行政法人科学技術振興機構
経皮的肝灌流化学療法(PIHP)を行う医療機器システムの開発	具 英成	肝胆膵外科	20,000,000	補 委 文部科学省
質量分析用超臨界流体抽出分離装置の開発	吉田 優	病因病態解析学	12,348,700	補 委 国立大学法人大阪大学
早期診断マルチバイオマーカーの開発(マルチオームコホートによるすい臓がんに対する早期・リスクマルチマーカーの開発)	吉田 優	病因病態解析学	5,000,000	補 委 国立大学法人東北大学
認知症用の炎症PETプローブの臨床開発	山本 泰司	精神科神経科	1,000,000	補 委 公益財団法人先端医療振興財団

小計

19

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
生命医学イノベーション創出リーダー養成	東 健	消化器内科	49,130,000	補委 文部科学省
地域イノベーション戦略支援プログラム	東 健	消化器内科	45,335,423	補委 文部科学省
アンチセンス核酸による福山型筋ジストロフィー治療薬探索と非臨床試験	戸田 達史	神経内科	11,150,100	補委 独立行政法人科学技術振興機構
診断・治療のための穿刺支援ロボットシステムの開発	掛地 吉弘	食道胃腸外科	1,300,000	補委 独立行政法人科学技術振興機構
緑と水の環境技術革命プロジェクト事業	東 健	消化器内科	4,000,000	補委 農林水産省
国産医療機器創出促進基盤整備等事業	久津見 弘	消化器内科	6,397,000	補委 厚生労働省
rasがん遺伝子産物の新規立体構造情報に基づくがん分子標的治療薬の開発	片岡 徹	分子生物学	66,300,000	補委 厚生労働省
ワクチン基礎生産技術の向上に関する研究	森 康子	臨床ウイルス学	29,948,000	補委 厚生労働省
レーザー消化管内視鏡治療装置の開発	東 健	消化器内科	35,938,000	補委 厚生労働省
小児難治性ネフローゼ症候群に対する新規治療法の開発を目指した全国多施設共同臨床試験	飯島 一誠	小児科学	63,700,000	補委 厚生労働省
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	荒川 創一	地域医療ネットワーク学	7,303,000	補委 厚生労働省
利便性の高い五種混合ワクチンの開発に向けた研究	森 康子	臨床ウイルス学	38,000,000	補委 厚生労働省
腎・泌尿器系の希少・難治性疾患群に関する診断基準・診療ガイドラインの確立	飯島 一誠	小児科学	30,200,000	補委 国立保健医療科学院
神経皮膚症候群に関する診療科横断的検討による科学的根拠に基づいた診療指針の確立	錦織 千佳子	皮膚科学	32,200,000	補委 国立保健医療科学院
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学	820,000	補委 国立保健医療科学院
ワクチンにより予防可能な疾患に対する予防接種の科学的根拠の確立及び対策の向上に関する研究	森 康子	臨床ウイルス学	1,000,000	補委 厚生労働省
小児期発症脊髄性筋委縮症に対するバルプロ酸ナトリウム多施設共同医師主導治験準備研究	西尾 久英	疫学	7,778,000	補委 国立保健医療科学院
BPSDの予防法と発現機序に基づいた治療法・対応法の開発研究	山本 泰司	精神科神経科	500,000	補委 厚生労働省
培養細胞感染系の確立されていない病原体の実験技術の開発と予防診断法に関する研究	勝二 郁夫	微生物学	1,800,000	補委 厚生労働省
多機能幹細胞を用いた自然免疫再構築による肝炎治療法の開発と臨床応用	的崎 尚	シグナル統合学	2,000,000	補委 厚生労働省
抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の治療及び予後に関する研究	山田 秀人	産科婦人科学	1,500,000	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
母子感染の実態把握及び検査・治療に関する研究	山田 秀人	産科婦人科学	1,500,000	補委 厚生労働省
母子感染の実態把握及び検査・治療に関する研究	森岡 一郎	周産母子センター	1,500,000	補委 厚生労働省
医療機関における感染制御に関する研究	荒川 創一	地域医療ネットワーク学	600,000	補委 厚生労働省
造血細胞移植における肝中心静脈閉塞症(VOD)に対する本邦未承認薬 defibrotideの国内導入のための研究:第I相および第II相試験(医師主導治験)	吉村 健一	臨床研究推進センター	300,000	補委 厚生労働省
身体疾患を合併する精神疾患患者の診療の質の向上に資する研究	平田 健一	循環器内科学	500,000	補委 厚生労働省
小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	前田 貢作	小児外科学	200,000	補委 国立保健医療科学院
小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究	前田 貢作	小児外科学	2,900,000	補委 国立保健医療科学院
B型肝炎ウイルスの感染複製機構の解明に関する研究	堀田 博	微生物学	9,000,000	補委 厚生労働省
C型肝炎ウイルスの増殖制御機構解明と創薬開発のための分子基盤	勝二 郁夫	微生物学	5,000,000	補委 厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における包括的な診断・治療ガイドライン作成に関する研究	前田 貢作	小児外科学	200,000	補委 国立保健医療科学院
C型肝炎を含む代謝関連肝がんの病態解明及び治療法の開発等に関する研究	勝二 郁夫	微生物学	3,000,000	補委 厚生労働省
C型肝炎から発がんにいたる病態進展の解明とその制御に関する研究	堀田 博	微生物学	2,500,000	補委 厚生労働省
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	中村 誠	眼科学	500,000	補委 国立保健医療科学院
アミロイドーシスに関する調査研究	西 慎一	腎・血液浄化センター	300,000	補委 国立保健医療科学院
B型肝炎ウイルス構造解析による薬剤応答性の評価と新規治療薬開発に関する研究	矢野 嘉彦	消化器内科学	5,000,000	補委 厚生労働省
大量出血症例に対する最適輸血療法の確立に関する研究	大北 裕	心臓血管外科学	450,000	補委 厚生労働省
神経変性疾患領域における基盤的調査研究	戸田 達史	神経内科学	400,000	補委 国立保健医療科学院
被災地の再生を考慮した在宅医療の構築に関する研究	橋本 正良	プライマリ・ケア医学	1,000,000	補委 厚生労働省
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	藤澤 正人	腎泌尿器科学	300,000	補委 厚生労働省
小児摂食障害におけるアウトカム尺度の開発に関する研究-学校保健における思春期やせの早期発見システム構築、および発症要因と予後因子の抽出に向けて-	北山 真次	親と子の診療部	100,000	補委 厚生労働省
違法ドラッグ等の薬物依存のトレンドを踏まえた病態の解明と診断・治療法の開発	曾良 一郎	精神科神経科学	1,200,000	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
間脳下垂体機能障害における診療ガイドライン作成に関する研究	高橋 裕	糖尿病・内分泌・総合内科学	400,000	補委 国立保健医療科学院
難治性神経芽腫に対するIL2.CSF併用ch14.18免疫療法の国内臨床開発	吉村 健一	臨床研究推進センター	600,000	補委 厚生労働省
大規模災害における循環器病診療の体制と手法の確立に関する多施設共同研究	平田 健一	循環器内科学	1,200,000	補委 厚生労働省
重篤小児集約拠点にかかる小児救急医療体制のあり方に関する研究	前田 貢作	小児外科学	1,900,000	補委 厚生労働省
がん診療拠点病院におけるがん疼痛緩和に対する取り組みの評価と改善に関する研究	木澤 義之	先端緩和医療学	8,000,000	補委 厚生労働省
医薬品としての薬事承認申請をめざしたアンチセンス核酸による福山型筋ジストロフィー治療薬探索と非臨床試験	戸田 達史	神経内科学	60,000,000	補委 厚生労働省
色素性乾皮症のiPS細胞を用いた病態解明と治療法の開発	錦織 千佳子	皮膚科学	39,910,000	補委 厚生労働省
次世代シーケンサーを用いた孤発性の神経難病の発症機構の解明と治療法開発に関する研究	戸田 達史	神経内科学	40,000,000	補委 厚生労働省
吸収性スペースを用いた体内空間可変粒子線治療の有用性と安全性の検討	佐々木 良平	放射線腫瘍科	29,900,000	補委 厚生労働省
福山型筋ジストロフィーの自然歴の把握と病状を反映するバイオマーカーの検索	戸田 達史	神経内科学	24,000,000	補委 厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症の分子病態解明・治療法開発に関する研究	堀田 博	微生物学	1,300,000	補委 厚生労働省
パーキンソン病患者由来iPS細胞を中心とする多面的疾患モデルに立脚した革新的医薬品の開発	戸田 達史	神経内科学	2,300,000	補委 厚生労働省
がん患者の重大症状に対する緩和治療開発に関する多施設共同臨床研究	木澤 義之	先端緩和医療学	3,000,000	補委 厚生労働省
ゲノム不安定性を示す難治性遺伝性疾患群の症例収集とゲノム・分子機能解析による病態解明研究	錦織 千佳子	皮膚科学	2,000,000	補委 厚生労働省
慢性腎不全診療最適化による新規透析導入減少実現のための診療システム構築に関する研究	西 慎一	腎臓・免疫内科学	300,000	補委 厚生労働省
脂肪組織由来多系統前駆細胞を用いた抗炎症・肝線維溶解療法の開発	青井 貴之	iPS細胞応用医学	2,000,000	補委 厚生労働省
脂肪組織由来多系統前駆細胞を用いた抗炎症・肝線維溶解療法の開発	一瀬 晃洋	美容外科	3,000,000	補委 厚生労働省
前向き大規模コホート研究において既に収集されているがん罹患前試料・情報を用いた発がんリスク要因の探索と層別化に関する研究	吉田 優	病因病態解析学	8,000,000	補委 厚生労働省
膵がん検診の効率化を目指した血液バイオマーカーの実用化研究	吉田 優	病因病態解析学	2,000,000	補委 厚生労働省
膵がん検診の効率化を目指した血液バイオマーカーの実用化研究	東 健	消化器内科学	12,000,000	補委 厚生労働省
高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃癌に対する術前trastuzumab併用化学療法の意味に関する臨床試験	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	1,100,000	補委 厚生労働省

小計

21

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
進行頭頸部がんに対する術後補助療法の標準治療確立のための多施設共同研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	1,000,000	補 委 厚生労働省
頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	600,000	補 委 厚生労働省
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	1,000,000	補 委 厚生労働省
血液バイオマーカーを用いたうつ病と双極性障害の鑑別診断法の開発に関する研究	菱本 明豊	精神医学	1,800,000	補 委 厚生労働省
慢性ウイルス性肝炎の病態把握(重症度・治療介入時期・治療効果判定・予後予測)のための非侵襲的病態診断アルゴリズムの確立	具 英成	肝胆膵外科学	300,000	補 委 厚生労働省
感染・炎症によるゲノム不安定性と発がん機構	東 健	消化器内科	22,620,000	補 委 文部科学省
脂肪蓄積制御の生理と病理における遺伝子転写ネットワーク解析	小川 涉	糖尿病・内分泌内科学	16,510,000	補 委 文部科学省
パーキンソン病および認知機能関連分子とパーソナルゲノム解析	戸田 達史	神経内科学	34,320,000	補 委 文部科学省
造血幹細胞の異系列分化と造血器疾患との関連	片山 義雄	血液内科	6,240,000	補 委 文部科学省
福山型筋ジストロフィーおよびジストログリカノパチーの分子病態解明と治療薬開発	戸田 達史	神経内科学	15,990,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
心筋梗塞発症および冠動脈病変不安定化に関わるバイオマーカーの同定	塩見 雅志	動物実験施設	2,080,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
アルポート症候群の分子治療法の確立	飯島 一誠	小児科学	7,150,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
肺腺癌浸潤における癌幹細胞の役割についてのiPS細胞技術を用いた研究	眞庭 謙昌	呼吸器外科学	5,460,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
消化器癌のDNA修復系遺伝子解析による抗癌剤高感受性群の同定と個別化治療の展開	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	5,330,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
マルチターゲットメタボロミクスを用いたがん診断システムの開発	吉田 優	病因病態解析学	5,460,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
メタボローム解析を用いたグリオーマにおける新規バイオマーカーの探索	甲村 英二	脳神経外科学	4,420,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
体内吸収性スプレーを用いた膵臓癌の空間可変放射線治療の開発	佐々木 良平	放射線腫瘍科	6,500,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
PGC1 α 新規アイソフォームの機能解析を通じた運動による代謝改善機構の包括的解析	小川 涉	糖尿病・内分泌内科学	5,460,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
宿主受容体の同定によるヘルペスウイルス侵入機構の解明	森 康子	感染症センター	4,940,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
嗅上皮と嗅球の再生機構解明に関する網羅的研究	丹生 健一	耳鼻咽喉頭頸外科学	5,720,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
アジア圏におけるヘリコバクター属細菌感染及びその関連消化器疾患予防対策調査研究	東 健	消化器内科学	5,460,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会

小計

21

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
医療文書の自動点字翻訳を実現する辞書と固有表現点訳システムの研究開発	菅野 亜紀	医療情報部	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
鍼通電で発見したAig11タンパク質の機能と鍼治療メカニズムの解明	大田 美香	医療情報部	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
C型肝炎ウイルスによる糖代謝異常の分子機序の解明	堀田 博	感染症センター	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
血管内皮リパーゼのDysfunctional HDLと動脈硬化の成因に及ぼす影響	石田 達郎	循環器内科	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腸内細菌叢を変化させて腸管免疫修飾を介する新規動脈硬化予防法の開発研究	山下 智也	循環器内科学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
気道アレルギー免疫応答に対するスフィンゴリン脂質系の役割の解明	西村 善博	呼吸器内科学	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腎移植後急性拒絶反応の新規診断法の開発	西 慎一	腎・血液浄化センター	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
FSP27による臓器間の脂肪分布変化がインスリン感受性を制御するメカニズムの解明	田守 義和	糖尿病・内分泌内科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
運動による糖脂質代謝改善機構の解明と生活習慣病に対する新規運動効果模倣薬の探索	細岡 哲也	糖尿病・内分泌内科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
神経軸索ガイダンス分子を用いた新規白血病治療法の開発	松岡 広	腫瘍・血液内科学	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
メタボロームに着目した膠原病の新規治療法および診断法の開発	三枝 淳	立証検査医学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
福山型先天性筋ジストロフィーの治療法の確立に関する研究	谷口 真理子	こども急性疾患学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
チオレドキシンとその誘導物質による皮膚炎治療薬の開発に関する研究	福永 淳	皮膚科学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
定量的コンピュータ断層血流評価とオミックス情報による肺癌の標準治療効果予測	大野 良治	機能・画像診断学	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
超高線量率X線照射の生体反応と医学利用に関する基礎的検討	岡本 欣晃	放射線腫瘍科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
癌幹細胞マーカーCD133に着目した胆道癌の抗癌剤耐性解明と新規治療への応用	味木 徹夫	地域医療ネットワーク学	390,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞を利用した脾臓移植によるI型糖尿病治療の確立	浅利 貞毅	肝胆脾外科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
薬物的大動脈瘤治療法開発に関する基礎的研究	岡田 健次	心臓血管外科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脳虚血のメタボローム解析:脳虚血前後代謝変化の包括的解析によるバイオマーカー探索	細田 弘吉	脳神経外科学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
骨髄間質細胞移植による下垂体機能再生の研究	谷口 理章	脳神経外科	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
椎間板ヘルニアにおける侵害受容性疼痛と神経障害性疼痛のメカニズムの解明	高田 徹	整形外科	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
椎間板変性に由来する疼痛発生メカニズムの解明	前野 耕一郎	整形外科	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
メカレノセプターをターゲットとした椎間板変性予防医療の開発	土井田 稔	整形外科	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腎細胞癌のチロシンキナーゼ阻害剤に対する耐性獲得機構の解明と新規治療法の開発	三宅 秀明	腎泌尿器科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
メタボロミクスによる音響外傷性難聴の病態解明と新たな治療法の開発	長谷川 信吾	耳鼻咽喉頭頸外科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
RNA干渉法による血液内耳関門の薬物透過性の調節	谷本 均	耳鼻咽喉頭頸外科学	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脂肪組織由来多系統前駆細胞を用いた遺伝子導入を伴わない平滑筋再生の基礎的研究	一瀬 晃洋	美容外科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
メタボローム解析による口腔がん早期発見スクリーニング法の開発	古森 孝英	口腔外科学	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
視線追尾・計測システムによる内視鏡手術における新しいトレーニング方法の確立	角 泰雄	食道胃腸外科学	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ラット筋損傷モデルにおける炭酸ガス経皮吸収の効果についての検討	酒井 良忠	リハビリテーション機能回復学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
母体と胎児間の栄養輸送におけるmTORシグナルの新たな役割	平野 剛	薬剤部	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マウス脊髄虚血モデルに対するヒト血管内皮前駆細胞移植による脊髄修復効果の検討	大北 裕	心臓血管外科学	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
わが国におけるアドバンスケアプランニングの方法論の確立とその有効性に関する研究	木澤 義之	先端緩和医療学	2,470,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
粥状硬化の進展におけるHDL機能不全の役割に関する統合的研究	平田 健一	循環器内科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
血管内皮接着因子JCADが心血管病発症に及ぼす影響の解明	川合 宏哉	総合臨床教育・育成学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
アムルピシンによる薬剤耐性化機構の解析	立原 素子	呼吸器内科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
筋萎縮性側索硬化症の早期診断における高密度表面筋電図の応用	関口 兼司	神経内科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
急性骨髄性白血病の微小環境における治療抵抗性機序の解明および克服療法の基礎研究	南 陽介	輸血部	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
転写後調節因子TFLによるB細胞リンパ腫発症メカニズムの解明	皆川 健太郎	総合内科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ステロイド性骨粗鬆症の克服のための臨床的、基礎的研究	蔭山 豪一	膠原病リウマチ内科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マイクロRNAによるリウマチ関節破骨細胞制御に関する研究	河野 誠司	検査部	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
細胞内シグナル伝達経路を標的とする脊髄性筋萎縮症治療法の開発	西尾 久英	疫学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
胎児付属物由来の間葉系幹細胞を用いた新生児慢性肺疾患に対する新規治療の開発	溝渕 雅巳	麻酔科学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
紫外線-活性酸素由来のDNA損傷における皮膚発癌メカニズム; 炎症はどう関与する?	国定 充	皮膚科	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
悪性黒色腫、乾癬の新しい治療戦略におけるIL-23とIL-27の役割とその応用	永井 宏	皮膚科	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
解離性大動脈瘤モデル作成とこれを用いた適切な血管内治療法の評価	杉本 幸司	放射線科	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
VX2担癌ウサギモデルにおける選択的動脈内炭酸ガス注入治療の効果の検討	山口 雅人	放射線医学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
外傷性肝後面下大静脈損傷に対する新たな血管内治療法の開発	井戸口 孝二	放射線科	520,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
放射線治療における腸管の耐容能向上を図る機能的食品の開発	江島 泰生	放射線腫瘍科	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新規開発高描出能腔壁拡張スプレーを用いた3次元画像誘導小線源治療の確立	吉田 賢史	放射線腫瘍科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
放射光を用いた高精細格子状照射による腫瘍および正常組織の生物学的効果の基礎的研究	西村 英輝	放射線腫瘍科	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
消化器癌のがん微小環境を標的とした分子標的薬と抗癌剤併用療法の開発	鈴木 知志	食道胃腸外科	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
NKT細胞の自然免疫と獲得免疫のクロストークを用いた癌治療法の開発	山下 公大	食道胃腸外科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
被爆のない血管内治療外科の確立に関する研究	藤田 敦史	脳神経外科学	2,470,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
IDH変異とマイクロRNA異常—IDH変異によるグリオーマ発生メカニズムの解析—	篠山 隆司	脳神経外科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
機能的脳神経疾患の放射線治療: マイクロビームX線による選択的神経細胞死の応用	近藤 威	脳神経外科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
明細胞肉腫の肺転移に対するホウ素中性子捕捉療法を用いた新たな治療方法の開発	藤本 卓也	整形外科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
難治性骨折に対するCD34陽性細胞移植術における有効な新規治療法の開発	松本 知之	整形外科	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
尿路感染症分離菌におけるカルバペネマーゼ産生菌の研究	重村 克巳	腎泌尿器科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
精巣内精子回収法における新たな回収予測因子の確立	原口 貴裕	泌尿器科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
子宮内膜の性周期および発癌過程におけるPITX1発現とテロメラーゼ制御の解析	蝦名 康彦	産科婦人科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌に対するヒト乳頭腫ウイルス遺伝子を標的とした集学的治療の開発	大月 直樹	耳鼻咽喉頭頸外科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
視神経脊髄炎における視神経炎モデル確立とその解析	金森 章泰	眼科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
血管奇形悪化機序の解明～成長ホルモン受容体を巡って～	野村 正	形成外科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
視覚障害患者への情報保障:適切な点字医療文章表現と文章自動変換プログラムの研究	池上 峰子	看護部	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
高脂肪食摂取が腸疾患に与える影響における腸内細菌と腸内代謝物の関与の検証	西海 信	消化器内科学	2,340,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
世界初の急性冠症候群疾患モデルの実現	小池 智也	動物実験施設	2,340,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
質量分析計を用いたがん転移早期検出法の開発	波多野 直哉	質量分析総合センター	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
乳癌および肺癌におけるTYRO3を標的とする治療法開発の妥当性の検討	南 博信	腫瘍・血液内科学	3,120,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
C型肝炎ウイルスの脂肪滴形成機構	勝二 郁夫	感染症センター	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
心不全発症・進展の超早期予知を目的とした新規バイオマーカーの探索	杜 隆嗣	立証検査医学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
我国におけるトランス脂肪酸の動脈硬化リスクとしての評価	新家 俊郎	冠動脈疾患治療部	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ホスホリパーゼCεを介した急性肺障害の新規治療法の開発	小林 和幸	呼吸器内科学	2,340,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
肥満病態形成におけるPGC1α新規スプライシングバリエーションの役割	野村 和弘	糖尿病・内分泌内科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
2型糖尿病関連遺伝子Kcnq1遺伝子領域が膵β細胞に及ぼす影響の解明	浅原 俊一郎	糖尿病・内分泌内科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Rabファミリー低分子量G蛋白質を標的とした神経芽腫の新しい治療法に関する研究	西村 範行	疫学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
次世代シーケンサーのメタゲノミック解析を用いた新生児感染症の病原微生物の同定	森岡 一郎	周産母子センター	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
超早産児における光線療法の適応基準確立のための多施設共同研究	中村 肇	小児科学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
皮膚炎症、皮膚発癌、白内障、及び乾癬におけるPLCε-PKCμ経路の役割解析	岡 昌宏	皮膚科学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
自殺感受性遺伝子の中樞神経系における機能解析	菱本 明豊	精神医学	2,990,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
MRIによる肝血管内皮機能測定法の開発	吉川 武	機能・画像診断学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
生体質感造形3Dプリンターによる臓器立体モデル腹腔鏡手術支援システムの確立	杉本 真樹	消化器内科学	2,990,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
転移性進行大腸癌に対するMDSCを標的とした新規治療戦略の開発	山本 将士	栄養管理部	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マイクロRNA-21を用いた新たな脳梗塞治療薬の開発	水川 克	脳神経外科	2,730,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
mTORシグナルを介したグルタミン代謝機構の解析とグリオーマ新規治療法の開発	田中 一寛	脳神経外科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
筋シナジーモデルに基づく5指駆動型電動義手制御法の提案と筋電義手処方支援	陳 隆明	整形外科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
肉腫幹細胞に対する炭酸ガス経皮投与を用いた新規治療の開拓	河本 旭哉	整形外科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
炭酸ガスを利用した難治性骨折の新規治療法開発	新倉 隆宏	リハビリテーション機能回復学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
長寿因子SIRT1による変形性関節症の治療の試み	松下 雄彦	整形外科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌における上皮間葉転換の制御機構の解明と標的治療への応用	村蒔 基次	泌尿器科	2,470,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
男性不妊における酸化ストレスの意義と新しい治療法の探求	千葉 公嗣	泌尿器科	2,860,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
β 2GPI/MHCクラスIIIに対する自己抗体の証明と産科異常病因解析	山田 秀人	産科婦人科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
子宮頸部胃型腺癌の分子基盤の解明とそれに基づく治療方法の開発	須藤 保	肝胆膵外科学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
唾液腺がんの免疫組織学的特徴及び特異的遺伝子変化の探索	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
網膜・視神経変性疾患におけるアクアポリンの関わり	中村 誠	眼科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
成人低酸素症時の100%酸素蘇生による脳高次機能に及ぼす影響とその治療法の確立	西山 隆	救急部	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
網羅的メタボローム解析によるインプラントリスクファクター検出法の確立	鈴木 泰明	歯科口腔外科	2,340,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
視機能異常の患者に対応した、病院内の施設と接遇に関する指針の確立	松浦 正子	看護部	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Open MRIを用いた高精度消化器癌リンパ節ナビゲーション手術システムの開発	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
超臨界流体質量分析システムを用いたがん診断システムの開発	吉田 優	病因病態解析学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ナノ粒子化したチタン酸化物を用いた新規放射線増感療法	佐々木 良平	放射線腫瘍科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
小径腎癌に対するロボット腎部分切除術における新しい手術法の開発	藤澤 正人	腎泌尿器科学	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
増殖制限型アデノウイルスを用いた遺伝子導入による頭頸部癌治療法の開発	丹生 健一	耳鼻咽喉頭頸外科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
定量的タンパク質発現解析を利用したミクロ解剖学アトラスの開発	橋川 和信	形成外科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
大気圧低温プラズマの医療応用	東 健	消化器内科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
iPS細胞を用いた機能性下垂体腫瘍の病態解明と創薬	高橋 裕	糖尿病・内分泌内科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
出生時低酸素症に対する100%酸素蘇生後の脳神経発達障害機序とその治療法の確立	植木 正明	災害・救急医学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
母斑(ほくろ)における毛髪誘導再生能の検討	寺師 浩人	形成外科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病患者の週周期血糖変動に関する研究	江木 盛時	麻酔科	2,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
VAV1-Rac1-PAK1経路の制御による卵巣癌の新たな治療戦略の開発	若橋 宣	血液内科学	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
細胞間接着複合体に着眼した癌新生リンパ管の特質性の解明	明石 昌也	歯科口腔外科	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
福山型筋ジストロフィーの治療を目指した α ジストログリカン糖鎖修飾構造の解析	久我 敦	神経内科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ヒト下垂体腺腫におけるErbB受容体ファミリー機能の解明	福岡 秀規	糖尿病・内分泌内科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
フィブロネクチン腎症の病因・病態の解明	大坪 裕美	小児科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
紫外線誘導性皮膚発癌・皮膚炎症・白内障及び乾癬におけるホスホリパーゼC ϵ の役割	坂口 正展	皮膚科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
頭頸部悪性黒色腫に対する重粒子線治療における患者検体遺伝子解析による予後予測	出水 祐介	放射線腫瘍科	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Mrp4の網膜血管新生における役割の解明	楠原 仙太郎	眼科学	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ミトコンドリアをターゲットとした口腔癌新規治療法の開発	長谷川 巧実	口腔外科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
口腔内腫瘍病変の悪性化と環境因子の相関—TRPチャネルをめぐる—	榊原 晶子	医療の質・安全管理部	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
蛋白質による膵 β 細胞量調節機構の解明	松田 友和	糖尿病・内分泌内科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
病原菌/非病原菌認識機序におけるIL-10の役割とその調節の解明	星 奈美子	消化器内科学	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
アデノ随伴ウイルスベクターを用いた神経障害性痛に対する遺伝子治療	小幡 典彦	麻酔科	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
動脈硬化性疾患における制御性T細胞の関与の解明	佐々木 直人	循環器内科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
心不全における心筋脂質代謝異常の機序の解明	田中 秀和	循環器内科	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
EGFR-TKIによるEMTを介した肺癌の薬剤耐性獲得と肺線維化機序の解明	田村 大介	呼吸器内科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新規糖尿病治療薬としてのEpac2A活性化化合物の同定	菅原 健二	糖尿病・内分泌内科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
マクロファージ炎症抑制機構の解明とその制御-糖尿病治療にむけて	楯谷 三四郎	糖尿病・内分泌内科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
濾紙血を用いたHRMA法による脊髄性筋萎縮症迅速診断法の確立	森川 悟	疫学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
溶血性尿毒症症候群における尿細管障害の包括的病態解明研究	忍頂寺 毅史	こども発育学	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腎尿路奇形疾患のゲノム情報を基盤とした新しいヒトネフロン分化誘導系の構築	庄野 朱美	小児科学	2,340,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
機能画像における3次元呼吸運動評価法の開発と臨床応用	神山 久信	放射線部	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
MRIテンソル画像を用いた陰茎海綿体神経描出に関する研究	北島 一宏	放射線部	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
磁気共鳴画像による微小循環障害の定量評価:反応性充血に対するBOLD効果を用いて	河野 淳	放射線科	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
HPV感染由来の頭頸部癌の新規・放射線抵抗性分子マーカーに関する研究	宮脇 大輔	放射線医学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
走査型蛍光X線顕微鏡を用いた肝硬変患者における鉄分布の意義	木下 秘我	肝胆膵外科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
中枢神経損傷時のRacシグナルを中心とした神経機能回復メカニズムの解析	甲田 将章	脳神経外科学	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
p62を介した癌細胞の悪性形質獲得の解明及び新規治療の開発	熊野 晶文	泌尿器先端医療開発学	2,340,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
血管奇形増殖因子を探る ~CAMアッセイを通じて~	江尻 浩隆	形成外科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
活性型Rasタンパク質のGTPを標的とした中赤外レーザーによる腫瘍制御法の開発	松本 耕祐	歯科口腔外科	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ブタモデルを用いた経カテーテル的大動脈瘤モデル作成法の研究	上嶋 英介	放射線科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
メラノサイトの光受容機序を探る~光受容タンパク質の作用~	藤井 美樹	形成外科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
高脂肪食による糖尿病発症機序における細胞内アミノ酸濃度センサーGCN2の役割	木村 真希 (小柳真希)	糖尿病・内分泌内科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
代謝から理解する上皮間葉転換の分子機序の解明とがん診断・創薬への応用	入野 康宏	立証検査医学	2,340,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
分子標的治療薬による皮膚障害発症メカニズムに基づく新規予防・治療法の探索	山本 和宏	薬剤部	2,730,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
プロテオーム解析による肝細胞がんの再発予測	斉藤 雅也	検査部	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
終末期の話し合いの実態と生活の質・遺族の健康に及ぼす影響に関する研究	山口 崇	腫瘍センター	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
がん疼痛治療における非ステロイド性消炎鎮痛薬の中止に関する検討	坂下 明大	腫瘍センター	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
血清メタボロミクスを用いた膵がんスクリーニング法の開発	小林 隆	消化器内科学	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
気道炎症におけるホスホリパーゼC ϵ の役割	永野 達也	呼吸器内科学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
小児特発性ネフローゼ症候群におけるマイクロRNA発現の検討及び治療法の開発	松野下 夏樹	こども急性疾患学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
DENNDメイン蛋白質による神経芽腫がん幹細胞の発生・分化制御機構の解明	山本 暢之	こども急性疾患学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Evi5lに注目した神経芽腫発症・進展の分子機構に関する研究	平瀬 敏志	看護部	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新生児低酸素性虚血性脳症に対する自家間葉系幹細胞治療の開発	香田 翼	周産母子センター	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
抗酸化物質と吸収性スパーサーの2方向性腸管防護による新規膀胱癌放射線治療の開発	赤坂 浩亮	放射線腫瘍科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
放射光マイクロビームX線を用いた放射線抵抗腫瘍に対する超高線量放射線治療の検討	椋本 成俊	放射線腫瘍科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
高分解能拡散強調画像は、子宮体癌診断において造影検査を不要とできるか？	上野 嘉子	放射線科	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
過酸化チタンナノ粒子を用いた新規放射線増感療法の基礎研究	中山 雅央	放射線医学	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Ex vivo lung perfusionを用いた新しい臓器保存法の確立	田中 雄悟	呼吸器外科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
骨折治癒促進を目指した炭酸ガス経皮吸収療法の確立	岩倉 崇	整形外科	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
肩腱板由来細胞シートを用いた新しい腱板修復術の開発	美船 泰	整形外科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腱損傷の治癒過程におけるサルコペニアの影響の検討	乾 淳幸	リハビリテーション部	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
椎間板変性予防医療を目指した初期椎間板変性の病態解明	角谷 賢一郎	リハビリテーション部	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
中咽頭癌治療効果とADH,ALDH遺伝子多型に関する研究	四宮 弘隆	耳鼻咽喉・頭頸部外科	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
色素性乾皮症モデルマウスを用いた進行性感音難聴の病態の解明と治療法の開発	小嶋 康隆	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
メタボロミクスによる頭頸部癌の診断・治療法の確立	森本 浩一	耳鼻咽喉頭頸部外科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
網膜血管新生におけるSIRT1の役割の解明及びSIRT1活性化経路の解析	松宮 亘	眼科	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
質量分析計を用いた口腔がんスクリーニングの実用化	木本 明	歯科口腔外科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
顎顔面領域に発現する先天異常疾患の原因遺伝子探索	岡本 奈那 (山本奈那)	歯科口腔外科	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Konishi A, Shinke T, Otake H, Nishio R, Sawada T, Takaya T, Nakagawa M, Osue T, Taniguchi Y, Iwasaki M, Kinutani H, Masaru K, Takahashi H, Terashita D,	循環器内科、冠動脈疾患治療部	Impact of cytochrome P450 2C19 loss-of-function polymorphism on intra-stent thrombi and lesion outcome after everolimus-eluting stent implantation compared to that after first-generation drug-eluting stent implantation	Int J Cardiol. 2015 Jan 20; 179: 476-83
2	Taniguchi Y, Miyagawa K, Nakayama K, Kinutani H, Shinke T, Okada K, Okita Y, Hirata KI, Emoto N	循環器内科、冠動脈疾患治療部	Balloon pulmonary angioplasty: an additional treatment option to improve the prognosis of patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension	EuroIntervention. 2014 Aug; 10(4): 518-25
3	Yamashita S, Yoshida A, Fukuzawa K, Fujiwara R, Suzuki A, Nakanishi T, Matsumoto A, Konishi H, Ichibori H, Hirata K	循環器内科	Upper limit of vulnerability during defibrillator implantations predicts the occurrence of appropriate shock therapy for ventricular fibrillation	Circ J. 2014 ; 78(7): 1606-11
4	Emoto T, Sasaki N, Yamashita T, Kasahara K, Yodoi K, Sasaki Y, Matsumoto T, Mizoguchi T, Hirata K	循環器内科	Regulatory/effector T-cell ratio is reduced in coronary artery disease	Circ J. 2014 ; 78(12): 2935-41
5	Konishi A, Shinke T, Otake H, Takaya T, Nakagawa M, Inoue T, Hariki H, Osue T, Taniguchi Y, Iwasaki M, Nishio R, Hiranuma N, Kinutani H, Kuroda M, Takahashi H, Terashita D, Shite J, Hirata K	循環器内科	Favorable vessel healing after nobori biolimus A9-eluting stent implantation-6- and 12-month follow-up by optical coherence tomography	Circ J. 2014 ; 78(8): 1882-90

小計 5

6	Kawara F, Inoue J, Takenaka M, Hoshi N, Masuda A, Nishiumi S, Kutsumi H, Azuma T, Ohdaira T	消化器内科	The influences of pepsin concentrations and pH levels on the disinfective activity of ozone nanobubble water against helicobacter pylori	Digestion. 2014 ; 90(1): 10-7
7	Takamatsu T, Miyahara H, Azuma T, Okino A	消化器内科	Decomposition of tetrodotoxin using multi-gas plasma jet	J Toxicol Sci. 2014 Apr; 39(2): 281-284
8	Bando H, Iguchi G, Fukuoka H, Yamamoto M, Hidaka-Takeno R, Okimura Y, Matsumoto R, Suda K, Nishizawa H, Takahashi M, Tojo K, Takahashi Y	糖尿病・内分泌内科	Involvement of PIT-1-reactive cytotoxic T lymphocytes in anti-PIT-1 antibody syndrome	J Clin Endocrinol Metab. 2014 Sep; 99(9): E1744-9
9	Matsumoto R, Fukuoka H, Iguchi G, Nishizawa H, Bando H, Suda K, Takahashi M, Takahashi Y	糖尿病・内分泌内科	Long-term effects of growth hormone replacement therapy on liver function in adult patients with growth hormone deficiency	Growth Horm IGF Res. 2014 Oct; 24(5): 174-9
10	Yamamoto M, Iguchi G, Bando H, Fukuoka H, Suda K, Takahashi M, Nishizawa H, Matsumoto R, Tojo K, Mokubo A, Ogata T, Takahashi Y	糖尿病・内分泌内科	A missense single-nucleotide polymorphism in the sialic acid acetyltransferase (SIAE) gene is associated with anti-PIT-1 antibody syndrome	Endocr J. 2014 ; 61(6): 641-4
11	Inui Y, Matsuoka H, Yakushijin K, Okamura A, Shimada T, Yano S, Takeuchi M, Ito M, Murayama T, Yamamoto K, Itoh T, Aiba K, Minami H	腫瘍・血液内科	Methotrexate-associated lymphoproliferative disorders: management by watchful waiting and observation of early lymphocyte recovery after methotrexate withdrawal	Leuk Lymphoma. 2015 Feb; 26(1): 1-30
12	Fujiwara Y, Toyoda M, Chayahara N, Kiyota N, Shimada T, Imamura Y, Mukohara T, Minami H	腫瘍・血液内科	Effects of aprepitant on the pharmacokinetics of controlled-release oral oxycodone in cancer patients	PLoS One. 2014 Aug 14; 9(8): e104215-e104215

13	Fujiwara Y, Kobayashi T, Chayahara N, Imamura Y, Toyoda M, Kiyota N, Mukohara T, Nishiumi S, Azuma T, Yoshida M, Minami H	腫瘍・血液内科	Metabolomics evaluation of serum markers for cachexia and their intra-day variation in patients with advanced pancreatic cancer	PLoS One. 2014 Nov 20; 9(11): e113259-e113259
14	Nishio M, Matsumoto S, Tsubakimoto M, Nishii T, Koyama H, Ohno Y, Sugimura K	放射線科	Paired Inspiratory/Expiratory Volumetric CT and Deformable Image Registration for Quantitative and Qualitative Evaluation of Airflow Limitation in Smokers with or without COPD	Acad Radiol. 2015 Mar; 22(3): 330-6
15	Ohno Y, Nishio M, Koyama H, Seki S, Tsubakimoto M, Fujisawa Y, Yoshikawa T, Matsumoto S, Sugimura K	放射線科	Solitary pulmonary nodules: Comparison of dynamic first-pass contrast-enhanced perfusion area-detector CT, dynamic first-pass contrast-enhanced MR imaging, and FDG PET/CT	Radiology. 2015 Feb; 274(2): 563- 75
16	Ohno Y, Koyama H, Yoshikawa T, Takenaka D, Seki S, Yui M, Yamagata H, Aoyagi K, Matsumoto S, Sugimura K	放射線科	Three-way Comparison of Whole-Body MR, Coregistered Whole-Body FDG PET/MR, and Integrated Whole-Body FDG PET/CT Imaging: TNM and Stage Assessment Capability for Non-Small Cell Lung Cancer Patients	Radiology. 2015 Jan 14:140
17	Koyama H, Ohno Y, Nishio M, Matsumoto S, Sugihara N, Yoshikawa T, Seki S, Sugimura K	放射線科	Iterative reconstruction technique vs filter back projection: utility for quantitative bronchial assessment on low-dose thin-section MDCT in patients with/without chronic obstructive pulmonary disease	Eur Radiol. 2014 Aug; 24(8): 1860-7
18	Koyama H, Ohno Y, Nishio M, Takenaka D, Yoshikawa T, Matsumoto S, Seki S, Maniwa Y, Ito T, Nishimura Y, Sugimura K	放射線科	Diffusion-weighted imaging vs STIR turbo SE imaging: capability for quantitative differentiation of small-cell lung cancer from non-small-cell lung cancer	Br J Radiol. 2014 Jun; 87(1038): 20130307- 20130307
19	Nishio M, Matsumoto S, Koyama H, Yoshikawa T, Sugihara N, Sugimura K, Ohno Y	放射線科	Emphysema quantification by combining percentage and size distribution of low-attenuation lung regions	AJR Am J Roentgenol. 2014 May; 202(5): W453-8

20	Ohno Y, Nishio M, Koyama H, Yoshikawa T, Matsumoto S, Seki S, Obara M, van Cauteren M, Takahashi M, Sugimura K	放射線科	Pulmonary 3 T MRI with ultrashort TEs: Influence of ultrashort echo time interval on pulmonary functional and clinical stage assessments of smokers	J Magn Reson Imaging. 2014 Apr; 39(4): 988-97
21	Nishio M, Matsumoto S, Seki S, Koyama H, Ohno Y, Fujisawa Y, Sugihara N, Yoshikawa T, Sugimura K	放射線科	Emphysema quantification on low-dose CT using percentage of low-attenuation volume and size distribution of low-attenuation lung regions: effects of adaptive iterative dose reduction using 3D processing	Eur J Radiol. 2014 Dec; 83(12): 2268-76
22	Ohno Y, Nishio M, Koyama H, Seki S, Yoshikawa T, Matsumoto S, Obara M, van Cauteren M, Sugimura K	放射線科	Asthma: comparison of dynamic oxygen-enhanced MR imaging and quantitative thin-section CT for evaluation of clinical treatment	Radiology. 2014 Dec; 273(3): 907-16
23	Nishio M, Matsumoto S, Koyama H, Ohno Y, Sugimura K	放射線科	Airflow limitation in chronic obstructive pulmonary disease: ratio and difference of percentage of low-attenuation lung regions in paired inspiratory/expiratory computed tomography	Acad Radiol. 2014 Oct; 21(10): 1262-7
24	Akasaka H, Sasaki R, Miyawaki D, Mukumoto N, Sulaiman NS, Nagata M, Yamada S, Murakami M, Demizu Y, Fukumoto T	放射線腫瘍科	Preclinical evaluation of bioabsorbable polyglycolic acid spacer for particle therapy	Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2014 Dec 1; 90(5): 1177-85
25	Morioka I, Nakamura H, Koda T, Sakai H, Kurokawa D, Yonetani M, Morisawa T, Katayama Y, Wada H, Funato M, Takatera A, Okumura A, Sato I, Kawano S, Iijima K	小児科	Serum unbound bilirubin as a predictor for clinical kernicterus in extremely low birth weight infants at a late age in the neonatal intensive care unit	Brain Dev. 2015 Jan 28
26	Morisada N, Nozu K, Iijima K	小児科	Branchio-oto-renal syndrome: comprehensive review based on nationwide surveillance in Japan	Pediatr Int. 2014 Jun; 56(3): 309-14

27	Morioka I, Iwatani S, Koda T, Iijima K, Nakamura H	小児科	Disorders of bilirubin binding to albumin and bilirubin-induced neurologic dysfunction	Semin Fetal Neonatal Med. 2014 Nov 26
28	Morisada N, Sekine T, Ishimori S, Tsuda M, Adachi M, Nozu K, Nakanishi K, Tanaka R, Iijima K	小児科	16q12 microdeletion syndrome in two Japanese boys	Pediatr Int. 2014 Oct; 56(5): e75-8
29	Iijima K, Sako M, Nozu K, Nakamura H, Ito S	小児科	Rituximab for patients with nephrotic syndrome – Authors’ reply	Lancet. 2015 Jan 17; 385(9964): 226-227
30	Nozu K, Iijima K, Ohtsuka Y, Fu XJ, Kaito H, Nakanishi K, Vorechovsky I	小児科	Alport syndrome caused by a COL4A5 deletion and exonization of an adjacent AluY	Mol Genet Genomic Med. 2014 Sep; 2(5): 451-3
31	Nozu K, Vorechovsky I, Kaito H, Fu XJ, Nakanishi K, Hashimura Y, Hashimoto F, Kamei K, Ito S, Kaku Y, Imasawa T, Ushijima K, Shimizu J, Makita Y, Konomoto T, Yoshikawa N, Iijima K	小児科	X-linked Alport syndrome caused by splicing mutations in COL4A5	Clin J Am Soc Nephrol. 2014 Nov 7; 9(11): 1958-64
32	Iijima K, Sako M, Nozu K, Mori R, Tuchida N, Kamei K, Miura K, Aya K, Nakanishi K, Ohtomo Y, Takahashi S, Tanaka R, Kaito H, Nakamura H, Ishikura K, Ito S, Ohashi Y; Rituximab for Childhood-onset Refractory Nephrotic Syndrome (RCRNS) Study Group	小児科	Rituximab for childhood-onset, complicated, frequently relapsing nephrotic syndrome or steroid-dependent nephrotic syndrome: a multicentre, double-blind, randomised, placebo-controlled trial	Lancet. 2014 Oct 4; 384(9950): 1273-81

33	Fukunaga A, Hatakeyama M, Tsujimoto M, Oda Y, Washio K, Nishigori C	皮膚科	Steroid treatment can improve the impaired quality of life of patients with acquired idiopathic generalized anhidrosis	Br J Dermatol. 2015 Feb; 172(2): 537-8
34	Shimoura N, Fukunaga A, Nagai H, Oka M, Nishigori C	皮膚科	Epstein-Barr virus-associated methotrexate-induced accelerated rheumatoid nodulosis	Acta Derm Venereol. 2015 Jan; 95(1): 100-1
35	Nakano E, Ono R, Masaki T, Takeuchi S, Takaoka Y, Maeda E, Nishigori C	皮膚科	Differences in clinical phenotype among patients with XP complementation group D: 3D structure and ATP-docking of XPD in silico	J Invest Dermatol. 2014 Jun; 134(6): 1775-8
36	Omori M, Bito T, Yamada M, Ogura K, Eishi Y, Nishigori C	皮膚科	Systemic sarcoidosis with bone marrow involvement showing Propionibacterium acnes in the lymph nodes	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2014 Jun 9
37	Masaki T, Wang Y, DiGiovanna JJ, Khan SG, Raffeld M, Beltaifa S, Hornyak TJ, Darling TN, Lee CC, Kraemer KH	皮膚科	High frequency of PTEN mutations in nevi and melanomas from xeroderma pigmentosum patients	Pigment Cell Melanoma Res. 2014 May; 27(3): 454-64
38	Sakashita A, Kishino M, Nakazawa Y, Yotani N, Yamaguchi T, Kizawa Y	緩和支援治療科	How to Manage Hospital-Based Palliative Care Teams Without Full-Time Palliative Care Physicians in Designated Cancer Care Hospitals: A Qualitative Study	Am J Hosp Palliat Care. 2015 Jan 29
39	Kuramitsu K, Fukumoto T, Fukushima K, Iwasaki T, Tominaga M, Matsui T, Kawakami F, Itoh T, Ku Y	肝胆膵外科	Severe post-transplant lymphoproliferative disorder after living donor liver transplantation	Hepatol Res. 2015 Mar; 45(3): 356-62
40	Shinozaki K, Ajiki T, Matsumoto T, Yoshida Y, Murakami S, Okazaki T, Toyama H, Matsumoto I, Fukumoto T, Ku Y	肝胆膵外科	Anatomical variations of liver blood supply in patients with pancreaticobiliary maljunction	Surg Today. 2015 Feb 5

41	Matsumoto I, Shinzeki M, Asari S, Goto T, Shirakawa S, Ajiki T, Fukumoto T, Suzuki Y, Ku Y	肝胆膵外科	A prospective randomized comparison between pylorus- and subtotal stomach-preserving pancreatoduodenectomy on postoperative delayed gastric emptying occurrence and long-term nutritional status	J Surg Oncol. 2014 Jun; 109(7): 690-6
42	Kuramitsu K, Fukumoto T, Iwasaki T, Tominaga M, Matsumoto I, Ajiki T, Ku Y	肝胆膵外科	Long-term complications after liver transplantation	Transplant Proc. 2014 Apr; 46(3): 797-803
43	Fukushima K, Fukumoto T, Kuramitsu K, Kido M, Takebe A, Tanaka M, Itoh T, Ku Y	肝胆膵外科	Assessment of ISGLS Definition of Posthepatectomy Liver Failure and Its Effect on Outcome in Patients with Hepatocellular Carcinoma	J Gastrointest Surg. 2014 Apr; 18(4): 729-36
44	Matsumoto I, Tanaka M, Shirakawa S, Shinzeki M, Toyama H, Asari S, Goto T, Yamashita H, Ishida J, Ajiki T, Fukumoto T, Shimokawa M, Ku Y	肝胆膵外科	Postoperative Serum Albumin Level is a Marker of Incomplete Adjuvant Chemotherapy in Patients with Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	Ann Surg Oncol. 2014 Dec 9
45	Yoshida Y, Ajiki T, Ueno K, Shinozaki K, Murakami S, Okazaki T, Matsumoto T, Matsumoto I, Fukumoto T, Usami M, Ku Y	肝胆膵外科	Preoperative bile replacement improves immune function for jaundiced patients treated with external biliary drainage	J Gastrointest Surg. 2014 Dec; 18(12): 2095-104
46	Asari S, Matsumoto I, Toyama H, Shinzeki M, Goto T, Tanaka M, Shirakawa S, Yamashita H, Ajiki T, Fukumoto T, Ku Y	肝胆膵外科	Acute graft-versus-host disease following simultaneous pancreas-kidney transplantation: report of a case	Surg Today. 2014 Nov 6
47	Okita Y, Yamanaka K, Okada K, Matsumori M, Inoue T, Fukase K, Sakamoto T, Miyahara S, Shirasaka T, Izawa N, Ohara T, Nomura Y, Nakai H, Gotake Y, Kano H	心臓血管外科	Strategies for the treatment of aorto-oesophageal fistula	Eur J Cardiothorac Surg. 2014 Mar 11

48	Matsuzaki T, Matsushita T, Takayama K, Matsumoto T, Nishida K, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	Disruption of Sirt1 in chondrocytes causes accelerated progression of osteoarthritis under mechanical stress and during ageing in mice	Ann Rheum Dis. 2014 Jul; 73(7): 1397-404
49	Niikura T, Lee SY, Sakai Y, Nishida K, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	Treatment results of a periprosthetic femoral fracture case series: treatment method for Vancouver type b2 fractures can be customized	Clin Orthop Surg. 2014 Jun; 6(2): 138-45
50	Matsumoto T, Kuroda R, Matsushita T, Araki D, Hoshino Y, Nagamune K, Kurosaka M	整形外科	Reduction of Tunnel Enlargement With Use of Autologous Ruptured Tissue in Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: A Pilot Clinical Trial	Arthroscopy. 2014 Apr; 30(4): 468-474
51	Koga T, Niikura T, Lee SY, Okumachi E, Ueha T, Iwakura T, Sakai Y, Miwa M, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	Topical cutaneous CO2 application by means of a novel hydrogel accelerates fracture repair in rats	J Bone Joint Surg Am. 2014 Dec 17; 96(24): 2077-84
52	Matsuzaki T, Matsushita T, Tabata Y, Saito T, Matsumoto T, Nagai K, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	Intra-articular administration of gelatin hydrogels incorporating rapamycin-micelles reduces the development of experimental osteoarthritis in a murine model	Biomaterials. 2014 Dec; 35(37): 9904-11
53	Matsuzaki T, Matsumoto T, Muratsu H, Ishida K, Takayama K, Nagai K, Nakano N, Nishida K, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	The contribution of intraoperative medial compartment stability to post-operative knee flexion angle in unicompartmental knee arthroplasty	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2014 Dec 25
54	Sakata R, Kokubu T, Mifune Y, Inui A, Nishimoto H, Fujioka H, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	A new bioabsorbable cotton-textured synthetic polymer scaffold for osteochondral repair	Int Orthop. 2014 Nov; 38(11): 2413-20
55	Niikura T, Sakurai A, Oe K, Shibamura N, Tsunoda M, Maruo A, Shoda E, Lee SY, Sakai Y, Kurosaka M	整形外科	Clinical and radiological results of locking plate fixation for periprosthetic femoral fractures around hip arthroplasties: a retrospective multi-center study	J Orthop Sci. 2014 Nov; 19(6): 984-90

56	Matsushita T, Kuroda R, Oka S, Matsumoto T, Takayama K, Kurosaka M	整形外科	Clinical outcomes of medial patellofemoral ligament reconstruction in patients with an increased tibial tuberosity-trochlear groove distance	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2014 Oct; 22(10): 2438-44
57	Niikura T, Sakai Y, Lee SY, Iwakura T, Nishida K, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	D-dimer levels to screen for venous thromboembolism in patients with fractures caused by high-energy injuries	J Orthop Sci. 2015 Mar 24
58	Nagai K, Matsushita T, Matsuzaki T, Takayama K, Matsumoto T, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	Depletion of SIRT6 causes cellular senescence, DNA damage, and telomere dysfunction in human chondrocytes	Osteoarthritis Cartilage. 2015 Mar 25
59	Kurakawa T, Kakutani K, Morita Y, Kato Y, Yurube T, Hirata H, Miyazaki S, Terashima Y, Maeno K, Takada T, Doita M, Kurosaka M, Inoue N, Masuda K, Nishida K	整形外科	Functional impact of integrin $\alpha 5 \beta 1$ on the homeostasis of intervertebral discs: a study of mechanotransduction pathways using a novel dynamic loading organ culture system	Spine J. 2015 Mar 1; 15(3): 417-26
60	Sakata S, Hayashi S, Fujishiro T, Kawakita K, Kanzaki N, Hashimoto S, Iwasa K, Chinzei N, Kihara S, Haneda M, Ueha T, Nishiyama T, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	Oxidative stress-induced apoptosis and matrix loss of chondrocytes is inhibited by eicosapentaenoic acid	J Orthop Res. 2015 Mar; 33(3): 359-65
61	Nakano N, Matsumoto T, Takayama K, Matsushita T, Araki D, Uefuji A, Nagai K, Zhang S, Inokuchi T, Nishida K, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	Age-dependent healing potential of anterior cruciate ligament remnant-derived cells	Am J Sports Med. 2015 Mar; 43(3): 700-8

62	Matsumoto T, Hashimura M, Takayama K, Ishida K, Kawakami Y, Matsuzaki T, Nakano N, Matsushita T, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	A radiographic analysis of alignment of the lower extremities--initiation and progression of varus-type knee osteoarthritis	Osteoarthritis Cartilage. 2015 Feb; 23(2): 217-23
63	Kawakami Y, Ii M, Matsumoto T, Kuroda R, Kuroda T, Kwon SM, Kawamoto A, Akimaru H, Mifune Y, Shoji T, Fukui T, Kurosaka M, Asahara T	整形外科	SDF-1/CXCR4 axis in Tie2-lineage cells including endothelial progenitor cells contributes to bone fracture healing	J Bone Miner Res. 2015 Jan; 30(1): 95-105
64	Onishi Y, Akisue T, Kawamoto T, Ueha T, Hara H, Toda M, Harada R, Minoda M, Morishita M, Sasaki R, Nishida K, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	Transcutaneous application of CO2 enhances the antitumor effect of radiation therapy in human malignant fibrous histiocytoma	Int J Oncol. 2014 Aug; 45(2): 732-8
65	Taniguchi M, Hosoda K, Akutsu N, Takahashi Y, Kohmura E	脳神経外科	Endoscopic endonasal transsellar approach for laterally extended pituitary adenomas: volumetric analysis of cavernous sinus invasion	Pituitary. 2014 Sep 27
66	Akutsu N, Hosoda K, Ohta K, Tanaka H, Taniguchi M, Kohmura E	脳神経外科	Subarachnoid Hemorrhage Due to Rupture of an Intracavernous Carotid Artery Aneurysm Coexisting with a Prolactinoma under Cabergoline Treatment	J Neurol Surg Rep. 2014 Aug; 75(1): e73-6
67	Minami N, Kimura T, Uda T, Ochiai C, Kohmura E, Morita A	脳神経外科	Effectiveness of zigzag Incision and 1.5-Layer method for frontotemporal craniotomy	Surg Neurol Int. 2014 May 15; 5: 69-69
68	Kimura H, Okamura Y, Chiba Y, Hosoda K, Kohmura E	脳神経外科	Cilostazol administration with combination enteral and parenteral nutrition therapy remarkably improve outcome after subarachnoid hemorrhage	Acta Neurochir Suppl. 2014

69	Ueda K, Kanamori A, Akashi A, Kawaka Y, Yamada Y, Nakamura M	眼科	Difference in correspondence between visual field defect and inner macular layer thickness measured using three types of spectral-domain OCT instruments	Jpn J Ophthalmol. 2015 Jan; 59(1): 55-64
70	Akashi A, Kanamori A, Ueda K, Matsumoto Y, Yamada Y, Nakamura M	眼科	The detection of macular analysis by SD-OCT for optic chiasmal compression neuropathy and nasotemporal overlap	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014 Jul 11; 55(7): 4667-72
71	Kusuhara S, Negi A	眼科	Predicting Visual Outcome following Surgery for Idiopathic Macular Holes	Ophthalmologica. 2014 ; 231(3): 125-32
72	Morimoto K, Demizu Y, Hashimoto N, Mima M, Terashima K, Fujii O, Otsuki N, Murakami M, Fuwa N, Nibu K	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Particle radiotherapy using protons or carbon ions for unresectable locally advanced head and neck cancers with skull base invasion	Jpn J Clin Oncol. 2014 May; 44(5): 428-34
73	Miyake H, Hinata N, Imai S, Furukawa J, Tanaka K, Fujisawa M	泌尿器科	Partial nephrectomy for hilar tumors: comparison of conventional open and robot-assisted approaches	Int J Clin Oncol. 2015 Jan 23
74	Tanaka K, Furukawa J, Shigemura K, Hinata N, Ishimura T, Muramaki M, Miyake H, Fujisawa M	泌尿器科	Surgery-related outcomes and postoperative split renal function by scintigraphy evaluation in robot-assisted partial nephrectomy in complex renal tumors: an initial case series	J Endourol. 2015 Jan; 29(1): 29-34
75	Miyake H, Furukawa J, Hinata N, Muramaki M, Tanaka K, Fujisawa M	泌尿器科	Significant impact of R.E.N.A.L. nephrometry score on changes in postoperative renal function early after robot-assisted partial nephrectomy	Int J Clin Oncol. 2014 Sep 17
76	Tanaka K, Shigemura K, Hinata N, Muramaki M, Miyake H, Fujisawa M	泌尿器科	Histological evaluation of nerve sparing technique in robotic assisted radical prostatectomy	Indian J Urol. 2014 Jul; 30(3): 268-72

77	Hinata N, Murakami G, Miyake H, Tanaka K, Abe S, Fujimiya M, Takenaka A, Fujisawa M	泌尿器科	Urethral sphincter fatigue after robot- assisted radical prostatectomy: descriptive questionnaire-based study and anatomic basis	Urology. 2014 Jul; 84(1): 144-8
78	Hinata N, Miyake H, Kurahashi T, Ando M, Furukawa J, Ishimura T, Tanaka K, Fujisawa M	泌尿器科	Novel telementoring system for robot- assisted radical prostatectomy: impact on the learning curve	Urology. 2014 May; 83(5): 1088-92
79	Furukawa J, Miyake H, Tanaka K, Sugimoto M, Fujisawa M	泌尿器科	Console-integrated real-time three- dimensional image overlay navigation for robot-assisted partial nephrectomy with selective arterial clamping: early single- centre experience with 17 cases	Int J Med Robot. 2014 Dec; 10(4): 385-90
80	Yanagiuchi A, Miyake H, Tanaka K, Fujisawa M	泌尿器科	Significance of preoperatively observed detrusor overactivity as a predictor of continence status early after robot- assisted radical prostatectomy	Asian J Androl. 2014 Nov-Dec; 16(6): 869-72
81	Hinata N, Fujisawa M	泌尿器科	Reply by the authors	Urology. 2014 Oct; 84(4): 987-8
82	Shigemura K, Tanaka K, Yamamichi F, Muramaki M, Arakawa S, Miyake H, Fujisawa M	泌尿器科	Comparison of Postoperative Infection between Robotic-Assisted Laparoscopic Prostatectomy and Open Radical Prostatectomy	Urol Int. 2014 ; 92(1): 15-9
83	Tanimura K, Jin H, Suenaga T, Morikami S, Arase N, Kishida K, Hirayasu K, Kohyama M, Ebina Y, Yasuda S, Horita T, Takasugi K, Ohmura K, Yamamoto K, Katayama I, Sasazuki T, Lanier LL, Atsumi T, Yamada H, Arase H	産科婦人科、周産母子セン ター	β 2-glycoprotein I / HLA class II complexes are novel autoantigens in antiphospholipid syndrome	Blood. 2015 Mar 2

84	Yamada H, Deguchi M, Maesawa Y, Nakajima Y, Nishino Y, Tanimura K, Ebina Y	産科婦人科、周産母子センター	Medium-dose intravenous immunoglobulin therapy for women with six or more recurrent miscarriages	J Reprod Immunol. 2015 Feb 20
85	Tanimura K, Tairaku S, Deguchi M, Sonoyama A, Morizane M, Ebina Y, Morioka I, Yamada H	産科婦人科、周産母子センター	Prophylactic intravenous immunoglobulin injections to mothers with primary cytomegalovirus infection	Kobe J Med Sci. 2014 Jul 11; 60(2): E25-9
86	Nomura T, Osaki T, Ishinagi H, Ejiri H, Terashi H	形成外科	Simple and easy surgical technique for infantile hemangiomas: intralesional excision and primary closure	Eplasty. 2015 Jan 15; 15(-): e3-e3
87	Sakakibara S, Tsuji Y, Hashikawa K, Terashi H	形成外科	Is immobilization of the ankle and metatarsophalangeal joint effective in suppressing the spread of infection in diabetic foot ulcers?	Int J Low Extrem Wounds. 2014 Sep; 13(3): 226-9
88	Sakakibara S, Ishida Y, Hashikawa K, Yamaoka T, Terashi H	形成外科	Intima/medulla reconstruction and vascular contraction-relaxation recovery for acellular small diameter vessels prepared by hyperosmotic electrolyte solution treatment	J Artif Organs. 2014 Jun; 17(2): 169-77
89	Ishida Y, Sakakibara S, Terashi H, Hashikawa K, Yamaoka T	形成外科	Development of a novel method for decellularizing a nerve graft using a hypertonic sodium chloride solution	Int J Artif Organs. 2014 Nov; 37(11): 854-60
90	Sakakibara A, Hashikawa K, Yokoo S, Sakakibara S, Komori T, Tahara S	形成外科	Risk factors and surgical refinements of postresective mandibular reconstruction: a retrospective study	Plast Surg Int. 2014 ; 2014: 893746- 893746
91	Zen Y, Grammatikopoulos T, Hadzic N	病理診断科	Autoimmune pancreatitis in children: insights into the diagnostic challenge	J Pediatr Gastroenterol Nutr. 2014 Nov; 59(5): e42-5
92	Zen Y, Britton D, Mitra V, Pike I, Sarker D, Itoh T, Heaton N, Quaglia A.	病理診断科	Tubulin β -III: a novel immunohistochemical marker for intrahepatic peripheral cholangiocarcinoma.	Histopathology: 2014; 65(6): 784- 792

93	Kasagi S, Zhang P, Che L, Abbatiello B, Maruyama T, Nakatsukasa H, Zanvit P, Jin W, Konkel JE, Chen W	検査部	In vivo-generated antigen-specific regulatory T cells treat autoimmunity without compromising antibacterial immune response	Sci Transl Med. 2014 Jun 18; 6(241): 241ra78-241ra78
94	Kitajima K, Tanaka U, Ueno Y, Maeda T, Suenaga Y, Takahashi S, Deguchi M, Miyahara Y, Ebina Y, Yamada H, Tsurusaki M, Tamaki Y, Sugimura K	放射線部	Role of diffusion weighted imaging and contrast-enhanced MRI in the evaluation of intrapelvic recurrence of gynecological malignant tumor	PLoS One. 2015 Jan 28; 10(1): e0117411-e0117411
95	Kitajima K, Suenaga Y, Ueno Y, Kanda T, Maeda T, Deguchi M, Ebina Y, Yamada H, Takahashi S, Sugimura K	放射線部	Fusion of PET and MRI for staging of uterine cervical cancer: comparison with contrast-enhanced (18)F-FDG PET/CT and pelvic MRI	Clin Imaging. 2014 Jul-Aug; 38(4): 464-9
96	Kitajima K, Ebina Y, Sugimura K	放射線部	Present and future role of FDG-PET/CT imaging in the management of gynecologic malignancies	Jpn J Radiol. 2014 Jun; 32(6): 313-23
97	Kitajima K, Suenaga Y, Kanda T, Miyawaki D, Yoshida K, Ejima Y, Sasaki R, Komatsu H, Saito M, Otsuki N, Nibu K, Kiyota N, Minamikawa T, Sugimura K	放射線部	Prognostic Value of FDG PET Imaging in Patients with Laryngeal Cancer	PLoS One. 2014 May 12; 9(5): e96999-e96999
98	Kitajima K, Takahashi S, Ueno Y, Miyake H, Fujisawa M, Sugimura K	放射線部	Visualization of periprostatic nerve fibers before and after radical prostatectomy using diffusion tensor magnetic resonance imaging with tractography	Clin Imaging. 2014 May-Jun; 38(3): 302-6
99	Kono AK, Croisille P, Nishii T, Nishiyama K, Kyotani K, Shigeru M, Takamine S, Fujiwara S, Sugimura K	放射線部	Cardiovascular magnetic resonance tagging imaging correlates with myocardial dysfunction and T2 mapping in idiopathic dilated cardiomyopathy	Int J Cardiovasc Imaging. 2014 Dec; 30(Suppl 2): 145-52

100	Kono AK, Kitajima K, Mmatsuoka H, Otani K, Itoh T, Sugimura K	放射線部	Findings of 18F-Fluorodeoxyglucose Positron-Emission Tomography in Methotrexate-Related Lymphoproliferative Disorder	OPEN JOURNAL OF RADIOLOGY. 2014 Dec; 4(4): 293-300
101	Tanaka S, Toyonaga T, Ohara Y, Yoshizaki T, Kawara F, Ishida T, Hoshi N, Morita Y, Azuma T	光学医療診療部	Esophageal diverticulum exposed during endoscopic submucosal dissection of superficial cancer	World J Gastroenterol. 2015 Mar 14; 21(10): 3121-6
102	Tanaka S, Toyonaga T, Morita Y, Fujita T, Yoshizaki T, Kawara F, Wakahara C, Obata D, Sakai A, Ishida T, Ikehara N, Azuma T	光学医療診療部	Endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer in anastomosis site after distal gastrectomy	Gastric Cancer. 2014 Apr; 17(2): 371-6
103	Toyonaga T, Man-I M, Morita Y, Azuma T	光学医療診療部	Endoscopic submucosal dissection (ESD) versus simplified/hybrid ESD	GASTROINTEST ENDOSCOPY CLIN N AM. 2014 Apr; 24(2): 191-9
~				

小計 4
計 103

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
~				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 ○審査申請手順について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 被験者の保護を最優先し、かつ、大学の社会的信頼を得つつ、臨床研究を適正に推進するために、利益相反が深刻な事態へと発展することの未然防止を目的として、利益相反のマネジメントを適切に実施する。マネジメントの実施のため、臨床研究利益相反マネジメント委員会を設置し、委員会は利益相反に関する重要事項を調査・審議・審査する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 7 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	随時
・ 研修の主な内容 ○臨床研究の全体像、治療開発のための研究形態、研究倫理と被験者保護等について e-learningを受講する。	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本院における後期研修プログラムは、初期研修修了者を対象とし、神戸大学及び研修協力病院において専門的な臨床経験を積み、多くの領域の専門医、あるいは内科や外科ではそのサブスペシャリティの専門医を取得する。また、地域医療に貢献する実地臨床医にも幅広い臨床研修の場を提供することも可能である。

【診療科別専門医育成プログラム】

- ・学会専門医の取得を目的とする。
- ・多彩な症例を有し高度先進医療を行ない充実した指導医のいる大学病院と、豊富な症例を有し主体的な診療経験ができる一般病院の両者の利点を活かす。
- ・各領域間での交換プログラムを充実させ、多様な内容を可能とする。
- ・どの時期でも3～12ヶ月間大学内の他の領域にローテートが可能であり、他の診療科でより短期間の研修をしたり、他の診療科のカンファレンスや回診などに参加したりすることも出来る。
- ・医員の身分を持ったまま社会人枠を利用して大学院に入学し、専門医取得とともに学位を取得することも可能である。

【包括的臨床医育成プログラム】

- ・専攻しようとする診療科が未決定である場合、専攻診療科が決定するまでの間を支援する(期間は原則として1年となり、延長することも可能)。
- ・内科共通プログラム、外科共通プログラム及び内科・外科を組み合わせたプログラムにより構成されている。

2 研修の実績

研修医の人数	146人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
金澤 健司	総合内科	講師	27年	
平田 健一	循環器内科	教授	31年	
西 慎一	腎臓内科	教授	32年	
西村 善博	呼吸器内科	特命教授	32年	
森信 暁雄	膠原病リウマチ内科	准教授	27年	
東 健	消化器内科	教授	34年	
小川 渉	糖尿病・内分泌内科	教授	31年	
戸田 達史	神経内科	准教授	30年	
南 博信	腫瘍・血液内科	教授	29年	
南 博信	血液内科	教授	29年	
岩田 健太郎	感染症内科	教授	18年	
杉本 幸司	放射線科	特命教授	27年	
佐々木 良平	放射線腫瘍科	特命教授	22年	
飯島 一誠	小児科	教授	33年	
錦織 千佳子	皮膚科	教授	35年	
曾良 一郎	精神科神経科	教授	33年	
木澤 義之	緩和支援治療科	特命教授	24年	

掛地 吉弘	食道胃腸外科	教授	28年
具 英成	肝胆膵外科	教授	38年
田中 優子	乳腺内分泌外科	特命准教授	17年
大北 裕	心臓血管外科	教授	37年
眞庭 謙昌	呼吸器外科	教授	25年
大北 裕	小児外科	教授	37年
黒坂 昌弘	整形外科	教授	38年
甲村 英二	脳神経外科	教授	36年
中村 誠	眼科	教授	26年
丹生 健一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	29年
藤澤 正人	泌尿器科	教授	31年
山田 秀人	産科婦人科	教授	31年
寺師 浩人	形成外科	教授	29年
一瀬 晃洋	美容外科	特命准教授	22年
溝渕 知司	麻酔科	教授	30年
西山 隆	救命救急科	特命教授	27年
伊藤 智雄	病理診断科	教授	23年
酒井 良忠	リハビリテーション科	特命教授	19年
古森 孝英	歯科口腔外科	教授	36年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

<p>① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）</p>
<p>○臨床検査技術研修</p> <ul style="list-style-type: none">・ 主な内容：TDM について、B 型肝炎ガイドラインとルミパルス肝炎マーカーの有用性、ケアリングプロレポート、産科に関連する臨床検査-最近の話題-、本邦における肝細胞がんの特徴とその診療における腫瘍マーカーPIVKA-II の役割、呼吸器疾患の検査法・ 研修の期間・実施回数： 1 時間程度 8-10 回/年（院内にオープン）
<p>○神戸臨床検査フォーラム</p> <ul style="list-style-type: none">・ 主な内容：臨床応用に向けた iPS 細胞研究の展望、がんセラノスティクスへの取組み、創薬とコンパニオン診断薬の開発事例、がんのコンパニオン診断における病理検査の役割・ 研修の期間・実施回数： 3 時間程度 1 回/年（院外にもオープン）
<p>○いむーの(免疫組織データベース)技術セミナー</p> <ul style="list-style-type: none">・ 主な内容：免疫組織化学技術の基礎と応用を講義して、免疫染色標本の染色性の評価について鏡検実習を行う・ 研修の期間・実施回数：終日（6 時間）1 回/年 研修の参加者：50 名（院外もオープン）
<p>○リハビリテーション部会</p> <ul style="list-style-type: none">・ 主な内容：PNF の基礎を中心にファシリテーションテクニックに関する講義と、PNF の基礎的な内容の簡単な実技を実施。・ 研修時期：2014 年 4 月 20 日 3 時間程度・ 研修の参加人数：65 名（院外にもオープン）
<p>○神戸栄養研究会</p> <ul style="list-style-type: none">・ 主な内容：医師、コメディカルを対象に栄養・輸液および緩和ケア関連の研究会を実施し、理解を深める。・ 期間・実施回数：2 時間 1 回/年 参加者：100 名（院外もオープン）
<p>○NEST 勉強会</p> <ul style="list-style-type: none">・ 主な内容：医師、コメディカルが各々の専門の立場から NEST、栄養に関するテーマで勉強会を行い、チーム医療の推進を図る。NST 専門療法士受験のために必要な実習時間として申請できる。・ 期間・実施回数：1 時間 1 回/月 参加者：80 名
<p>○ME 機器に関する研修</p> <ul style="list-style-type: none">・ 主な内容：輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器・血液浄化装置等の ME 機器使用方法に関する研修・ 研修の期間・実施回：2014 年 4 月 1 日～3 月 31 日 110 回・ 研修の参加人数：806 名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>○医療技術部初任者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な内容：新たに職場に採用された医療技術職員にたいして、病院で働くための基本的な理論や技術を身につける。 ・ 研修の期間・実施回数： 1時間 7回
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 藤澤 正人
管理担当者氏名	薬剤部長 平井 みどり 総務課長 山腰 俊昭 管理課長 足立 裕 学務課長 永野 康彦 研究支援課長 足立 久司 医事課長 石坂 雅志

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		診療録センター (エックス線写真→各診療科、処方せん→薬剤部、病院日誌→総務課)	病歴資料については診療録センターで集中管理を行い、エックス線写真、処方せん、病院日誌は当該担当部署において、保管している。 診療録の院外持ち出しは原則禁止としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課	
	高度の医療の研修の実績	学務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医事課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医事課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	医事課
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
	各号及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医事課・薬剤部
	第二十三條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課・薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課・薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課・薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	管理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理課
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	<input checked="" type="radio"/> 2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 藤澤 正人		
閲覧担当者氏名	薬剤部長 平井 みどり	総務課長 山腰 俊昭	
	管理課長 足立 裕	学務課長 永野 康彦	
	研究支援課長 足立 久司	医事課長 石坂 雅志	
閲覧の求めに応じる場所	応接室		
閲覧の手続の概要 総務課に申出を行い、応接室にて閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 医療安全の考え方 2. 医療事故発生時の対応 3. 医療事故等発生時の関連機関連絡先 4. インシデント報告システム 5. 医療安全に関する内規集	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： ・ 病院における医療安全管理対策の策定及び変更 ・ 医療安全管理のための研修及び教育計画の策定 ・ 重要なインシデントに関する分析・改善策の検討・対応の決定について ・ その他、医療安全に関する全般事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 16 回
・ 研修の主な内容： ① 医療安全管理に関する職員必修講習会（感染対策、医療機器関係含む 年 2 回）② 研修医、看護師、技官、外部委託職員に対する採用時研修③ 医学部学生に対する医療安全管理に関する卒前教育（1年生対象、4年生対象）④ 看護部対象講習（新規採用者対象、身体拘束について）⑤ 医療安全に関連する講習会10回（「医療コンプライアメントについて」「ヒューマンエラーから学ぶ」「医療安全の基礎とTeamSTEPS」「院内自殺予防対策について」「インスリン治療の基本的な考え方～責任インスリン法とスライディングスケール法」「当院でのQQコールの現状と解析」「病棟でのRRSへの取り組み」「DVTの基礎知識」「皮膚障害について」「弾性ストッキングについて」）	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： イ. 医療スタッフポケットマニュアルの配付、ロ. 薬剤情報検索システム ハ. 持参薬の病棟薬剤師による処方チェックシステム、ニ. 是正処置実施計画書・報告書の作成、ホ. 院内巡回の定期化、ヘ. 医薬品及び医療機器安全管理委員会を整備、ト. チームによるインシデント報告、チ. 手術安全チェックリストの導入及び他部門の拡大、リ. CV穿刺の整備、ス. 医療の質・安全マネージャー連絡会議の定例化	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（4名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（7名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任（4）名 兼任（5）名 ・ 活動の主な内容： （1）インシデント審議依頼やヒヤリ・ハット事例に関する情報の収集 （2）収集された情報とその分析に基づき、病院内で具体的な対策の企画、実施 （3）医療現場への的確な情報の提供 （4）医療安全管理マニュアルの作成 （5）医療事故防止の教育・学習の展開等の任務を行う （6）医療相談の報告に基づく指導	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的考え方、院内感染対策のための委員会・組織、院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針、院内感染発生時の対応（報告体制含む）に関する基本方針、患者・家族等に対する指導およびインフォームドコンセントと当該指針の閲覧に関する基本方針、その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針（サーベイランス・院内ラウンド、抗菌薬適正指導の推進、特定抗菌薬届出の監視、コンサルテーション・職業感染対策・マニュアルの編集・院内環境の整備）、感染制御の地域連携</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策委員会…年12回(月1回実施) 感染制御部会…年12回(月1回実施)
<p>・ 活動の主な内容： MRSA及び耐性菌の検出報告、アウトブレイク疑い対応、院内ラウンド、医療関連サーベイランス、感染管理リンクナース会および感染制御部連絡会議開催、職業感染予防対策（結核曝露対策、ワクチン接種、針刺し・切創予防など）、院内感染予防マニュアルの改訂、院内研修（必修講習会、ICP講習会など）の計画・実施。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 17 回
<p>・ 研修の主な内容： ・ 新規採用者全員対象に、院内感染対策の基本と針刺し予防の講義およびデモンストレーション。 ・ 全職種に対して、職員必修講習会として年2回実施。医療安全部門と共に時期に応じて院内感染対策上重要なポイントおよびトピックスや実例について講演。 ・ 全職員のうち希望者に対して、院内感染防止対策におけるベーシックな知識を得てもらうように、院内認定ICP育成講習会ベーシックを年4回開催。 ・ 職種別（医師、看護師、診療技術部門、委託業者等）対象に、年2～14回、各職種に応じた現場で遵守すべき感染対策の知識や技術について講義やトレーニング。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無) ・ 感染症法に決められている届け出が必要な感染症の報告体制および、感染対策上重要な感染症に対する感染制御部を中心とした監視体制のマニュアル化。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 感染対策実施状況を確認するために、定期（週1回）およびオンタイムに院内ラウンドを実施し、必要時指導。 ・ 抗菌薬使用状況を継続的に調査し、毎週開催の抗菌薬適正使用プロジェクトで抗菌薬の使用法を検討し、随時介入指導。 ・ 現場医療従事者からのコンサルテーションをうけて、随時対応。 ・ 侵襲処置・医療器具関連感染、血液・体液曝露のサーベイランスを実施。 ・ 職員、学生のワクチン接種プログラム(B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、ムンプス)を計画・実施。 ・ 新興・再興感染症の対応を協議し、院内全体に感染防止対策を周知徹底する。 ・ 改築、改修時の院内のファシリティーマネージメントを行う。 ・ 医学科学生（BSL前）及び保健学科学生の実習前に、感染防止対策の講義および手指衛生や個人防護用具の演習を実施。</p>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 16 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1)全職員対象に医療安全に関する必修講習会を年2回開催している。平成26年度のテーマは第Ⅰ期：ポリファーマシーについて、第Ⅱ期：薬剤の適切な施用について、とした。講習会終了後には確認試験を実施し習熟度の確認を行っている。</p> <p>(2)薬剤部では「安全管理のための連絡会」を月1回開催している。参加者には会終了後にアンケートを記載させているが、薬剤部長、副薬剤部長、薬剤主任等はそれを回覧し業務改善に繋げている。</p> <p>(3)新人看護師を対象とした「薬剤の基礎知識」をテーマとする講習会を開催している。</p> <p>(4)新入局職員を対象としたオリエンテーションで医薬品に係る講習を担当している。講習内容は、処方箋の記載方法、医薬品の取り扱い方法、院内の薬剤に関する運用方法等である。</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>「医薬品の安全使用のための業務手順書」は必要に応じ改訂しているが、少なくとも年1回は改訂を行い医薬品安全管理委員会と医療安全管理委員会での承認を得ている。また、薬剤部職員はこの手順書に基づき作成した「医薬品安全管理点検表」を用いて薬剤部以外に保管する医薬品等の管理状況を確認している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1)薬剤部の薬品情報室員はPMDAナビやホームページの閲覧によりイエローレター、ブルーレターを含む医薬品の安全使用のために必要な情報収集を行っており、得られた情報は速やかに院内周知している。また、イエローレター、ブルーレターについては当該薬剤の使用患者リストを病棟薬剤師に提供し、副作用発現状況等を確認すると共に、主治医等に情報提供を行っている。さらに薬剤部職員には個別に周知し、その記録を保管している。</p> <p>(2)全ての電子カルテ端末はPMDAのホームページが閲覧可能であるため、全職員は速やかに医薬品に関する副作用情報を確認することができる状況となっている。</p>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 15 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容： 人工呼吸器、除細動器、血液浄化装置、補助循環装置、人工心肺装置、閉鎖式保育器、診療用放射線照射装置、診療用高エネルギー放射線発生装置についての操作方法及び管理上の注意点とトラブルシューティングについて	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">計画の策定 (有・無)保守点検の主な内容： 院内の臨床工学技士による定期点検（定期消耗品交換含む）と、製造販売メーカー実施における点検報告書の管理	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器に関する安全情報の提供と不具合報告の連絡体制の強化 医療情報端末（電子カルテ）を用いての安全情報の共有	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
<p>・評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>機関名：日本医療機能評価機構</p> <p>評価を受けた時期：平成21年12月（認定期間 平成22年3月28日～平成27年3月27日）</p> <p>※特例措置の適用により、認定更新審査の実施延期中（平成27年12月受審予定）</p>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>方法：病院ホームページに掲載</p> <p>内容：各種治療実績・成績、医療機能情報提供、先進的な医療について</p>	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>・呼吸器センター(呼吸器内科、呼吸器外科等)、腫瘍センター（腫瘍・血液内科、緩和支援治療科等）、ICUにて複数の診療科が連携し対応。</p>	